

松里公民館だより No11

令和 4年 2月

まだまだ新型コロナウイルスに注意を

ダイヤモンドプリンセス号が横浜に寄港し、日本に新型コロナウイルスが入ってきてから1月で2年が経ちました。世界的なパンデミックも、一波・二波と続き、なかなか収束する気配が見えませんでした。しかし、五波が終わった時点で山梨県内では新規感染者も出ない日が続いていたので、これで収束するのではと思っていました、ところが年末には新たな変異株（オミクロン）が発生し、先月は県内でも過去最多の新規感染者が出てしまいました。また、「藤木の太鼓乗り」を初め、「きっかんじ」や「ドンド焼き」などの新春の伝統行事が中止になってしまいました。



ワクチン接種も進み、オミクロン株は重症化しないといわれていますが、母数が増えることにより今後どうなっていくかわからない状況です。

公民館活動を控えさせていただき2年が経とうとしています。今しばらく自粛をさせていただき、松里地区でのクラスター発生防止に努めたいと思いますので、御理解をお願いいたします。

「松里の昔ばなし」

今月は藤木です

「藤木の太鼓乗り」

上藤木と下藤木に夫々道祖神が祀ってあり毎年一月十四日の夜「行き来」の事が行なわれる。行き番の組はその年の干支に当たる動物の像を作り、大八車に乗せて行列で行き来する。舞台は道祖神場で、五穀豊穡、無病息災、家内安全を道祖神に祈念する。

ドンド焼きと言って道祖神の祀ってある広場で火をどんどん焚き、その周りを一周して太鼓と鐘とが適度の位置に立

つと、人でかつぐ大きな太鼓の上に乗った出演者が、歌舞伎の衣装で演技が行われる。出し物は忠臣蔵、太閤記、熊谷陣屋、仁木弾正等の有名な場面の「さわり」の演技と浄瑠璃が行われる勇壮なもので、演者の顔に焚火の赤い色が映え、パチパチはねて舞う火の粉の中で不思議な世界がくり広げられる。最後に過ぎや松の葉、竹等で作ったお庁屋と呼ばれる道祖神の御小屋を焼いて終わるのであるが、東山梨郡下は勿論、県下でも有名な特殊な祭りであった。
(原文のまま)



松里公民館 館長 飯島 節生
主事 小宮山茂樹